

活動を通して自己の成長につなげる

自分は、約10年前(2011年)開業してすぐに、青年部へ勧誘されて、入部しました。

青年部へ入部することは、多くのメリットがあります。自分が、特にメリットを感じた部分は、組織運営の方法や会議の進行方法をはじめ、ひとつのイベントを立ち上げ実施していく過程では、人材管理統率力、スケジュール管理力、企画力、実行力を勉強できるなど、自分の今までの人生ではあまり知り得なかったことを学べ、様々な知識を得られたことはもちろん、その経験を自社のみならず、他の会や組織でも応用し、活用できたことが大きいです。

青年部の活動は、一般部員、理事、賛助部員にわけられ、毎月の理事が集まる理事会では、青年部で毎月実施される例会(イベント)にむけての話し合いが実施されています。

また、1年の活動内容、予算、部長、理事の選抜などは、総会にて決議され決定されます。そういったひとつの組織が活動していく流れは、どこの団体でも同様に実施していることかと思いますが、例会(イベント)の数が多い、行政と関わるものもある、地域貢献ができる、会費は安いですが助成金を受けているおかげで動かす予算が大きいなど勉強できる環境は整っていると思います。

最近の具体例では、コロナ禍になり、リモート会議が様々な場面で活用されるようになりましたが、青年部は、ZOOMを使った会議を行い、ZOOMの活用法のセミナーも実施しました。企画運営側にいたからこそということもありますが、ZOOMやリモート会議に関しては、他の会でも教える側になれるぐらい経験を得ることができました。新しいことをどんどん試して学ぶことができるというのは、若い人材がそろっている青年部ならではの実感できるエピソードです。

また、青年部主催の街コンなどのイベント企画・責任者を任されたことがあります。そのときは、謎解き街コンという形で、グループで市役所と文化会館の各所にある「謎」を解き明かしながら仲を深めていただいて、終わったあとに懇親会をして、カップル誕生を目指しました。市役所と文化会館全体をつかうことになり、かなりスケジュールがタイトになってしまい、計画段階から、会議の回数も多くなり、意見をまとめるのにまず苦労し、また企画を実行するに多くの人が必要になった為、役割を分担し把握してもらうのにも、苦労しました。無知な自分にとっては、スケジュールを組むことも、人の意見をまとめることも、人材を適材適所に配置することも、現場全体を見渡し監督する事も、先輩たちの細かい気遣いも、多くのことが勉強になりました。

勉強になると思うかまたはとても面倒だなと思うかは、人それぞれだと思いますが、活動を通し、人と密に関わることで自身を見つめなおし、成長につなげられるというのが、自分が感じる最大のメリットです。